

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区气象台
火山監視・情報センター

7月7日～8日に現地調査を実施しました。
地表面温度分布の観測では、7月1日及び4日の観測よりも更に大正火口東壁の高温領域¹⁾が縮小し、温度が低下していることも確認しました。
火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、大正火口や62-2火口付近には近づかないよう注意して下さい。
＜噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）が継続＞

○ 活動概況

・ 表面現象の状況（図1～5）

7月7日、富良野川西岸（火口から3.5kmの地点）からの地表面温度分布の観測では、7月1日及び4日の観測よりも更に大正火口東壁の高温領域が縮小しているのを確認しました。赤外熱映像装置¹⁾による各観測日の最高温度は、1日：200℃、4日：117℃、7日：44℃です。

7月8日、大正火口近傍で実施した赤外熱映像装置¹⁾による地表面温度分布の観測では、6月28日の観測と比較し、局所的な地熱域の拡大が認められる程度で、6月30日以降の一連の活動前の状態に概ね戻っていることを確認しました。このほか、大正火口東壁で新たな噴気孔が認められること、高温ガスの噴出や硫黄の燃焼等によると推定される痕跡（変色域）が見られるなど、熱活動が高まっていたことが確認されました。

なお、大正火口付近で夜間に高感度カメラで明るく見える現象は7月5日の夜間から観測されていません。

62-2火口の噴煙の状況に特段の変化はありません。

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・ 火山ガスの状況

ガス観測は観測条件が悪かったため、適切なデータは得られませんでした。

・ 地震、微動の発生状況及び地殻変動の状況

火山性地震は少なく、火山性微動は観測されていません。傾斜計及びGPS連続観測による地殻変動に特段の変化はありません。

○ 活動評価

十勝岳の地震活動は概ね静穏に経過していますが、2006年からみられている62-2火口直下浅部の膨張は継続していますので、引き続き火山活動の推移に注意して下さい。

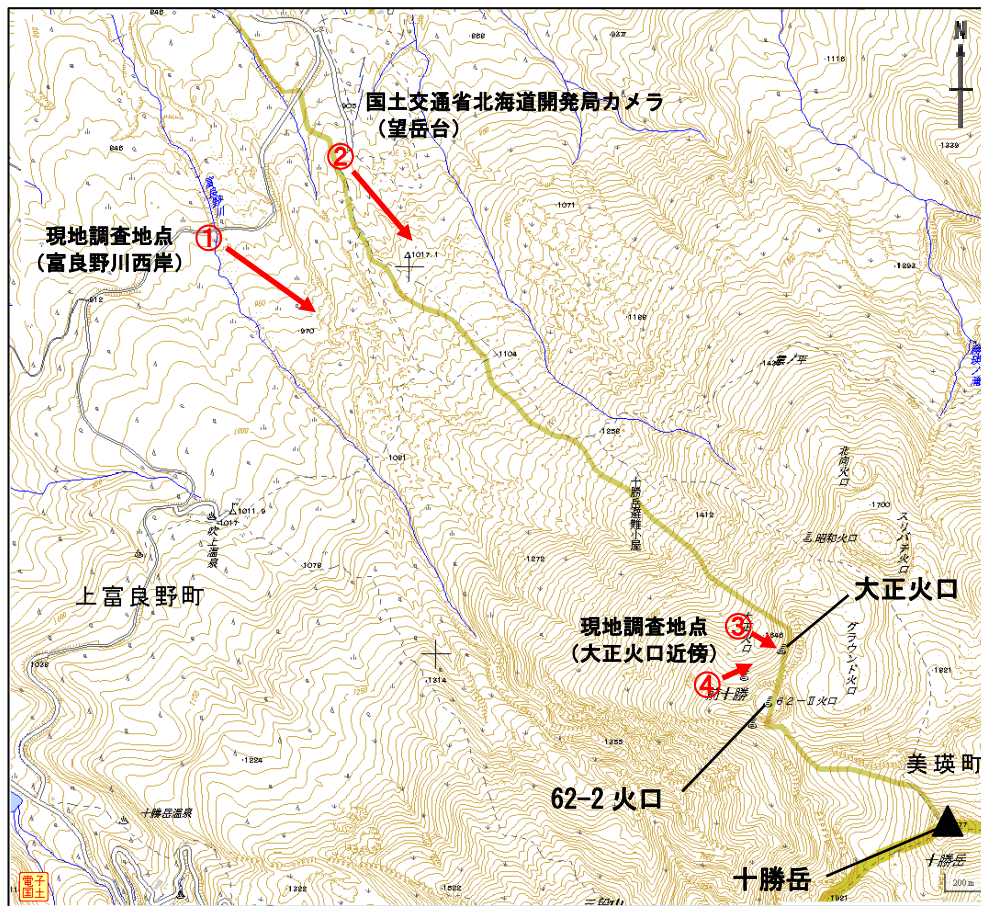


図 1 十勝岳 現地調査地点①、③、④ 及び遠望カメラ位置②の図
・赤矢印は撮影方向



図 2 十勝岳 大正火口が高感度カメラで明るく見える現象の状況 (国土交通省北海道開発局カメラ) (図 1 の②より撮影)
・高感度カメラで明るく見える現象は 7 月 5 日の夜間から認められません。

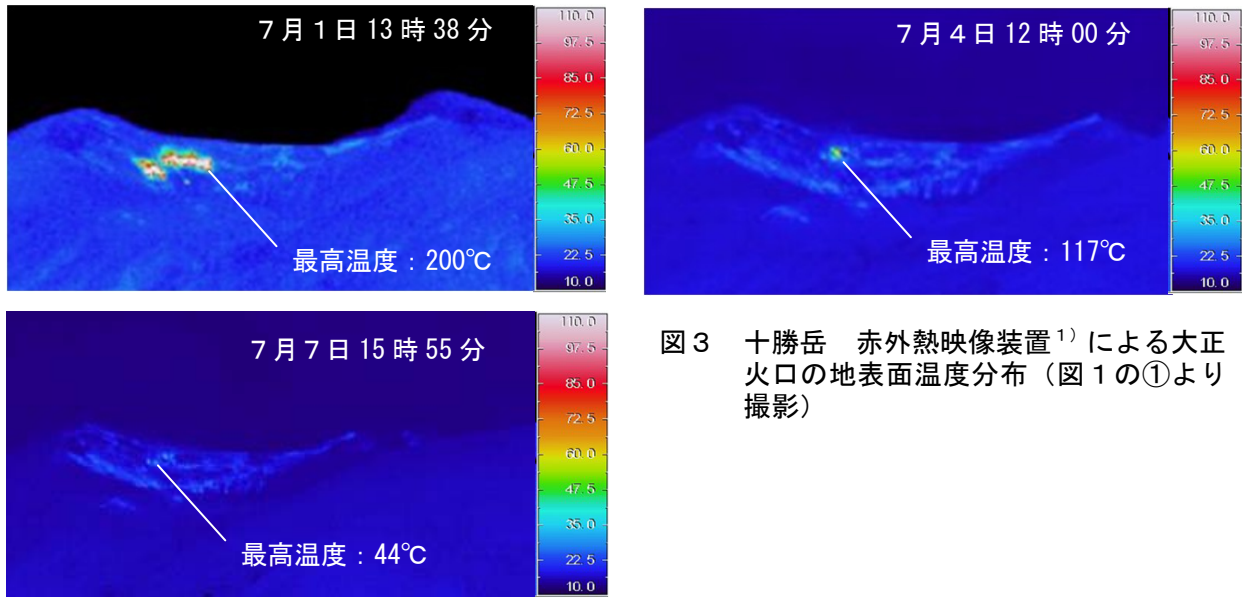


図 3 十勝岳 赤外熱映像装置¹⁾による大正火口の地表面温度分布 (図 1 の①より撮影)

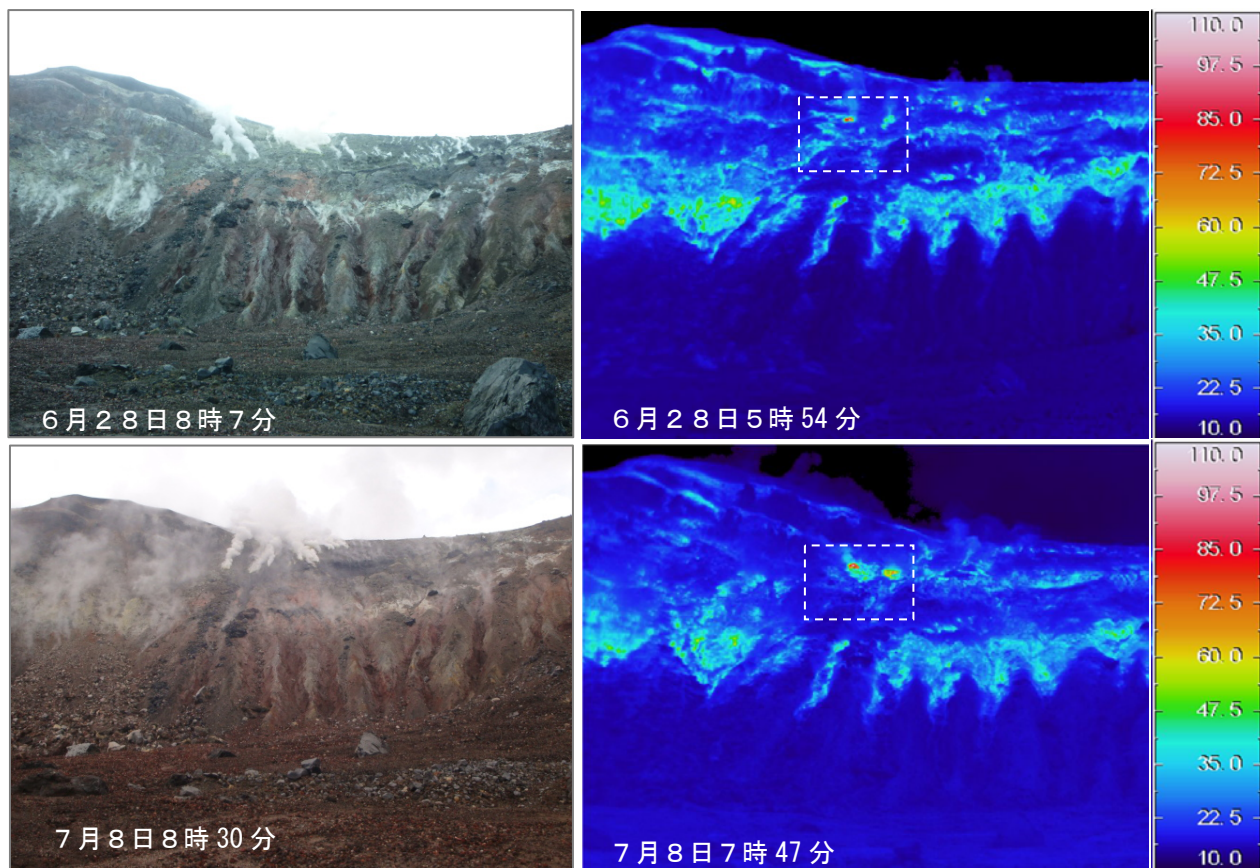


図 4 十勝岳 大正火口の状況及び赤外熱映像装置¹⁾による地表面温度分布 (図 1 の③より撮影)
・破線矩形内に局所的な地熱域の拡大が見られます。

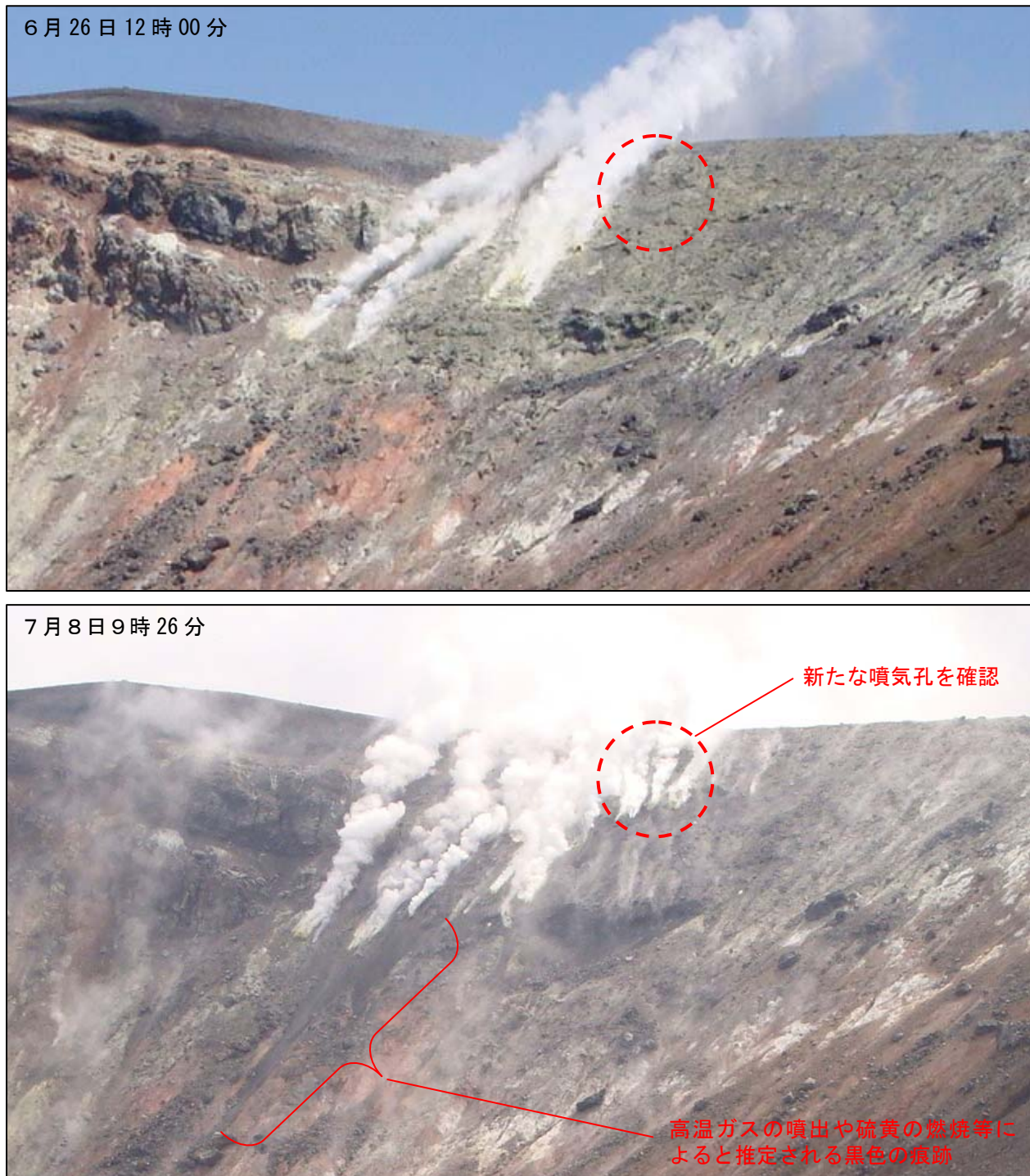


図5 十勝岳 大正火口の噴気及び変色域の状況（図1の④より撮影）
・ 7月8日の現地調査で赤点線内に新たな噴気孔を確認しました。
・ 噴気孔下部に高温ガスの噴出や硫黄の燃焼等によると推定される黒色の痕跡を確認しました。